



森 政郎 議員

池田町の防災対策

各地で大規模災害が多発している。①集中豪雨対策(体制・点検・改修・危険等)②ハザードマップ③業務継続計画④Jアラート点検は?

町長

①非常時は担当課員が待機対応。県職員の定期的な河川パトロールや、強雨時には役場職員が巡回点検。杭瀬川合流点は、赤坂大橋の河道掘削で流下能力が改善。橋の架替は地元協議中。砂防では金地谷改修が完成し、井振谷堰堤は今後。大津谷・小和谷・萩ヶ谷上流部の補修工事は施工中。治山では願成寺内山の山腹崩壊防止工事が完成予定。藤代南谷は今後具現化。

②洪水のハザードマップは、作成後11年経過。気象条件の変化や浸水想定区域の見直しを受け、再作成し各世帯に配布したい。
③業務継続計画・風水害タイムラインの策定は、町のホームページで公表。
④Jアラートは、年間2回点検しており、一部自治体のような不具合はない。

①池田町内の杭瀬川改修はいつか?

②ホームページ閲覧者が住民の2%程度とのことだが、別法も検討を。
③池田山でも北の方で崩落箇所が目立つ。地質が軟弱なのか?
④避難経路は、高齢者等でも対応可能な経路なのか?

町長

①3年ほど前に10年間で池田町合流点の上流100mくらいまで上がってくる計画。実際にはまだ相当かかる。

②関心を持たれている住民もあり、色々な面を見ながら公表していきたい。
③池田山は、広島のような「マサ土」ではないが、やわらか

空き家対策

2年前の実態把握以降も危険家屋増加や荒廃も進んでいる。現状は?

町長

3年前の調査では424軒、その後427軒だが、増加していると思う。見回りサービスや空き家バンク、町の代理執行等の実施体制を整えていく。「町舎内検討委員会」を設け、議会・業者等から構成される「池田町空き家対策協議会」を設置し、問題点を検討していく。来年度から本格的に動き出す。

い土質もある。
④二次災害のおそれや、狭い道路もあるため、一般的な経路で作った。

小学校英語の正式教科化への支援

小学校英語が3年後から正式教科となる。教育委員会による小学校教員への支援が種々報道された。当町は?

教育長

池田町は、平成22年度より特例校として小1から外国語活動を実施してきた。教育委員会として、全学年の指導計画や教材開発を行ってきた。英語の研究会に参加した代表教師が、各学校の英語担当教師を対象に勉強会を開き、担当教師が学校へ戻って広める取り組みをしている。色々な地区での研修には参加してもらおうよう努めている。